

沖縄県ハンドボール協会 スポーツインテグリティ研修会 (2023・3・5③)

本日は研修会にご参加頂きありがとうございました。皆さんの「私は、いま、こう思う」を個人が特定できないように加工して一覧にしています。研修会内で「自分の価値観」を言葉にし、ペアディスカッションで「他人の価値観」を知り、この振り返り Paper で同じ研修会内での仲間の「多様な価値観」を学ぶことに繋げてもらえればよいと思います。

体罰・暴言は本当に気をつけないといけないと実感しました。

今回の講義を受講して、ハンドボールの指導者という立場だけでなく、教師という立場から学ぶことが多かったです。私達が子供達に与える影響力を今一度考えて、この子達将来を考えられる指導者になりたいと思いました。

自分自身の経験で指導するのではなく、時代の流れに添いながら、常に学びながら、指導者として成長していけたらと思いました。

当然体罰や暴言、ハラスメントは反対です。私が指導するチームは決して強くはありません。その中でもハンドボールという競技の楽しさを伝え、大人になっても形はどうあれハンドボールに少しでも関わって欲しいと思いながら指導にあたっております。本講義において今後の指導に活かすべく今後も一層の研鑽を積んで参ります。ありがとうございました。

私は今回の講義を受けて改めて思ったことは勝利至上主義の指導者にならないことを強く思った。しかし、自分がやっていることが全て正しい指導とは限らないので、他者の意見を聞きながら取り組んでいくことが大事だと感じた。今後も楽しいハンドボールができるように子ども達と一緒に学びながら成長していきたい。

今回の研修を通して、改めて人に指導するという事の難しさを感じました。指導をするに当たり、自身の経験論から指導が行われ、選手を叱責したりすることは自分の知識不足から来る事が一番の原因かなと思いました。私自身、多くのハンデを抱えながら指導にあたっていますが、指導者として常に悩み、どのような指導を自分が行えるのか考える事が多いです。今回の研修を通して、自分の知識を増やすこと、スポーツの研修に関わらず社会的な情勢を含めて多くの研修や、セミナーに触れる機会を作る事が、プレイヤーズ・センターの形成に繋がっていきけると思いました。グッドコーチングを目指して、今日の振り返りをしながら、指導に当たっていききたいと思いました。

私は体罰・暴言などは受けたことがありません。ただ、学生時代のチームメイトの中には体罰・暴言を受けたことのある人はたくさんいました。その人たちは体罰・暴言をした指導者に対し軽蔑や恐怖などなく、ありがとうという言葉をしていました。信頼関係の中での体罰は時には必要だと話していました。私は指導者の立場になって、体罰・暴言でしか指導できないのは指導者の指導不足であり、子供達をコントロールしようとしているだけにしか思えません。勝つために厳しさは必要だ。厳しさなしでは勝てないという意見も物凄くわかります。でも、その中で指導者として子供達の成長にどうやって関わっているのかを日々模索し、指導者も日々成長していかなければならないと感じました。体罰・暴言はだめということは全員が理解していると思います。その中で自分でも気づかない内に誰かを傷つけてしまっていることもあるかもしれません。常に周りの人と体罰を防ぐために協力し合うことも必要だと思いました。

研修会受講して本当によかったです。自分自身の指導法、子供達への発言・接し方を反省しました。次の練習からどのようにやっていこうか…それを今考えてきます。時代に合った指導法・子供達への関わり方をもっと勉強して私が尊

敬する恩師に思うように、私と出会えてよかったと思う教え子たちがでてくるようにこれから私自身変わっていきたく思います。またぜひ定期的に受講したいです。よろしくをお願いします。

直接指導する立場ではありませんが、選手や学校の生徒、自分の子どもへの接し方、言葉づかいの誤りに気づかされました。子どもたちの将来を見据えた言葉選びをもっとしていこうと思いました。変わらない生徒を少しでも前進するには指導者次第だと思いました、明日のクラスの生徒への声かけの仕方を色々シミュレーションしながら講義を受けていました。気づきを与えて下さり有難うございました。

今日の講義を受講して体罰、暴言が 19%も萎縮することを初めて知った。体罰、暴言はあってはならない事なので気をつけていきたい。

指導者視点で生徒のために…とは思っていますが、実際、客観的に観るとどうなんだろうと考えさせられました。勝つ事・楽しむ事のバランスが指導しての悩みではあります。試合になると怒ってしまう。これを導かせるように、顧問と話し合いながら、客観的視点が必要と感じました。指導者視点は、生徒へ大きな影響を与えると感じています。しっかりと先を見据えた指導方法をチームとして考えていきたいと、感じています。講習会、ありがとうございました。

これまで暴力暴言のある指導を受けることがなかったことが私にとって幸せなことなんだと思った。現在チームでも楽しいハンドボールをとどくんでいる。大人になってもハンドボールを続ける、または指導者になる。これほど嬉しいことはない。これまで関わった子供達が大人になるころどうなっているのか楽しみです。暴力暴言は悪。仲間を救うためにも行動していきたい。

私は現在 20 代で、生徒の頃は体罰や暴言が当たり前の時代で、大学時代では体罰や暴言が許されないと教えられる年代でした。その中で、体罰や暴言に関して、するつもりはないが、どこかで容認されてもおかしくないのかなと感じていましたが、完全な否定派になりました。体罰や暴言を受けて成功した人よりも、不幸になった人の方が多数いると言うことはとても印象的で、その子たちの一生を考えていく上で、絶対にあってはならないことだと確信しました。また、脳の萎縮に関するエビデンスを知れたことも大きく、踏みとどまるための材料として十分だと感じました。この研修をスタートとして、今後さらに学び続け、自分はもちろんのこと、勇気を振り絞って、競技に携わっている人たちみんなを巻き込んで防いでいくことにも協力していけたら良いなと感じました。

講習を聞いて、確かに今自分がやっている指導は自己満足なのかなって思いました。もっと生徒達とコミュニケーションを取り、ハンドボールの楽しさをわかってもらえるよう指導していきたいです。

今回の研修で、世代間や育ってきた環境などで意見が異なると感じました。私は体罰や暴言を受けたことがなかったので、指導者となった今、その方法を使った指導の選択肢は全くありませんでした。教育現場でも、指導方法に悩まされ、子どもたちも教員の言葉や行動に敏感になってきていて、やりづらさを感じます。しかし、クリーンな指導が当たり前の時代になれば、もっとやりやすい時代になると思いました。見られているという意識と学び続ける姿勢を持ち続けて、指導にあたっていきたくと思います。

コーチをさせて頂いていますが、今回の講習会で話しを聞いて体罰は子供達のためにも、自分と一緒にコーチをしているメンバーを守るためにも、あってはいけない事だと思いました。大変勉強になり、参加して良かったです。ありがとうございました！

体罰はしていない。暴言もプレイについて強く要求する場面ではそれに当たるのではないかと思った。卒業時の選手達の充実感が指導者としての手腕であることを学んで、自らを振り返る機会になった。この研修で学んだことを念頭に今後の指導に活かしていきたい。

必要な内容をこのようなかたちで受講できて安心しました。私も心掛けています。部活の指導の中での暴言は意識していましたが、まだまだあるかもしれません。これを機にもっと心掛けていきます。ただ、これからは指導者もチームを組み指導内容について振り返りを重ねていく態勢が必要だと思います。顧問 1 人だけではとても厳しいのではないのでしょうか。

体罰や暴言について深く考えさせられました。ハラスメントを理解し、脳に与える影響を考える事ができたので、家庭でもコーチングの場面でも、活かしていきたいと思います。本日はありがとうございました。

講習会受講し、自分の指導者としての資質に問題ないか自問自答しています。講習内容については、正論であり理解していますが、どんな風に指導したら良いのか迷路に入ったような気がします。

体罰、暴言はダメなことは十分に理解はしています。小学校カテゴリーの場合、指導者のほとんどが手弁当で行っているのが現実だと思います。そんな状況で求められることが多く、中身も重いこと(一人の人生に影響を与える)なのだと感じています。これから続けて行く自信が持てないのが正直なところです。これからも今日のような講習会？の定期的な開催を希望すると、どこかの取り組みの紹介(具体的な例として)などがあれば良いと思います。

私は体罰をしていない。私は体罰をしない。と思うことは簡単ですが、体罰の実態やどんな事が体罰になりうるのか。また体罰をしないさせない環境を指導者の立場、仲間で作っていくことの大切さや難しさを感じています。私は今年の 9 月頃から指導者になったばかりで、日々試行錯誤しながら選手 1 人 1 人と向き合っています。私の体験、経験を元に、選手と向き合っているつもりではありますが、その行動 1 つ 1 つに体罰の危険があり、選手の人生や将来にマイナスな影響を与えてしまう可能性があると感じることができました。私は自分の競技人生の中で体罰を受けたことがあったかもしれませんが、それを自分にとって必要だったり、美談化してきたのかもしれないと感じています。まだ指導者になったばかりですが、今日からがスタートであり、今日学んだことを選手 1 人 1 人に伝えると共に、これからの人生を豊かにするため、日本の将来を良くするために考え指導に励んでいきたいと考えます。

頭に残った言葉。体罰はしつけ、しつけという文化。暴言は社会では全く受け入れられないのになぜスポーツの世界では通用するのか。体罰がやめられない人は、体罰が悪いと思ってやっているから根が深い。信頼関係があれば、は、自分が勝手に信頼関係があると思っているに過ぎない。体罰はドーピング、手っ取り早く結果が出るだけでそれは指導ではない。調教。勝利至上主義の否定と勝ちを目指さないことはイコールではない。指導者もアップデートしなければ。言葉のレパートリーを増やす。今日の講習会、受ける前は、体罰は駄目だよ～の話をいっぱい聞くのかと思っていました。想像していた内容と全然違っていた。とても考えさせられたし、反省しました。信頼関係があればやってもいいことでは絶対ないんだと考えさせられました。ありがとうございました。

私が、指導者を目指し指導者になったことは、やはり高校時代の恩師との出会いでした。そのため、初めの頃の指導は、恩師がやっていることが正しいと思い真似をしていました。その頃は、体罰をしていました。しかし、沖縄県ハンドボール協会のおかげで、コーチ資格を取りその時も、絶対に今までやっていた指導は間違いだと気づかされました。私自身、選手・生徒に[良き変化を与えられる]指導者になりたいと思っています。何回も、暴言・暴力・ハラスメントの講

習を受けて指導者として変わってきましたが、今日の研修を受けて今関わっている選手・生徒の顔、最近の声かけを振り返るとやはり、まだまだ、自分よがりの言葉や選手のためとと思っていることが本当に正しいか考えさせられました。やはり、学ぶことは、指導を続ける上で大切なことだと実感しました。また、このような研修があれば積極的に自分の指導者としての振り返り再確認の場として学びます。今日は、ありがとうございました。

心を入れ替える予定です。

過去に私は選手を「罵倒」する過ちを指摘され、反省の上に指導者を続けています。私が生きてきた時代の価値観から脱却することの難しさを実感しつつ、選手や保護者の方から自分自身がどう見られているのか、やっていることは正しいか、ということに常に意識しながらの日々です。講習でもあったように、私だけでなく、周囲の指導者も選手を「罵倒」している方はまだまだ存在している現状があります。大事なのは、指導者本人が変わることが1番かと思いますが、周囲が指摘することで、その指導者だけでなくハンドボール界全体がそのような指導を許さない、ということを示すことだと思います。そういった点で、指導者全員が受講する今回の研修は大きな1歩だと思います。自分自身もこれから努力し続けていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

部員達が大人になって部活を振り返ったとき、良い思い出やよい仲間を得て、人生の中で輝いていた時代として残っていて欲しいと思っています。それができる指導者か自分に問いかける機会となりました。指導をしているとついつい言葉がキツくなる自分もいます。わかっているつもりでも意地が先に立つこともあります。改めて自分を客観的に見つめて部員と共にハンドを楽しみたいです。

今後指導していく中で、暴言・体罰はあってはならない事だと再認識しました。ハンドボール人口を増加させていく為にも、競技の楽しさをどれだけ選手に伝えられるかを意識し指導にあたりたい。そして印象に残ってもらえる指導者であるよう明日から取り組んでいきたい。

私は、小学校、中学校、高校と各カテゴリーで指導してきましたが、心が痛い内容でした。楽しさはもちろんですが、勝つことを目指し、プレーに対して大声で叫んでいました。うまく行かない時に手っ取り早いのが、大声で一喝することだと思っていたことは、私の指導力不足だと実感しました。人格を否定するような言葉を発していないにしても、大声で言うことは、子供達を委縮させていたかと思うと反省しかありません。特に自分の子供に対しては他の選手と比べて厳しく接してしまい、後から聞いた話だと、父親と一緒にやりたくないから辞めたいと言っていたそうです。転校をきっかけに私がハンドボールの指導から離れたので中学校も続けて、その後、高校、大学でもハンドボールを続けてくれているのは、嬉しい限りですが、転校がなければ辞めていたかもしれません。保護者から「自分の子供に甘い」と言われたくないため、子供を犠牲にして自分のことを守っていたことに申し訳なく思っています。勝つことは大事なことでありつつも、それまでの過程が大事で、結果もそれに伴うことを気づかされました。選手とは、コミュニケーションを取り具体的な内容で伝えること、今、なぜ、このプレーをしたのか？確認する、子供達の意見も取り入れられる指導者になればと思いました。